

市民が大活躍！ 総勢100名以上 舞台裏の大きな力

episode 3
Hamamatsu International Piano Competition

「浜松国際ピアノコンクールは、世界に類を見ない手厚い運営だ」。数々のコンクールを経験してきたコンテスタントや専属調律師たちは口を揃えて言う。

試弾によるピアノ選びでは、10分間確保され、練習する環境が与えられる。1人のコンテスタントに対して必ず1人、言葉が通じるボランティアが付き添いサポートする。惜しくも先に進めなかった出場者には、市内の学校や公共施設で演奏を行う機会が与えられ、希望すればホームステイも可能だ。「すべてのコンテスタントにベストを尽くせる環境を提供し、浜松での経験はすばらしかったと感じてほしい。」まさに日本の心であり、「おもてなしの街浜松」ならではのコンクールだ。



Volunteer

コンクール会場の運営を支える
ボランティア

世界各国からコンテスタントとピアノファンが浜松に集合するコンクール期間、舞台裏で活躍するのは市民ボランティアのスタッフたちだ。彼らなくして、この一大イベントは成立しない。登録受付から練習室の管理、出場者の誘導などを行う「出場者アテンドスタッフ」、審査委員への楽譜の用意やタイムキーパーを務める「審査委員アテンドスタッフ」、出場者への案内やチケットもぎり、ドア保安要員などを行う「ホールスタッフ」が、スムーズな運営ができるよう、それぞれの役割を担う。

Home stay

予選通過できなかった
コンテスタントを
温かく迎えるホストファミリー

ピアノコンクール事務局では、惜しくも予選通過できなかった出場者たちも、残りのコンクール期間を楽しめるようにホストファミリーを公募している。勝ち残っているコンテスタントにはホテル代が支給されるが、敗退すると、それ以降は支給されない。1次予選で落ちてしまうとコンクールが終わるまでの約2週間、自分自身でホテルを借りるか、航空券を取り直して帰国するかだが、せっかくの機会だから最終日まで楽しんでもらいたい。

日本文化に触れ、市内の学校でコンサートをしたり、ホームステイをしたりと、これらの経験もきっと彼らにとってかけがえない財産となるだろう。



米農家の加茂さん宅。日本食がおいしいと喜んでくれました。



ショッピングセンターで連弾を披露。

かもゆみ ホストファミリー 加茂侑美さん

私はオーストラリアの大学院を卒業しています。ホームステイでお世話になった経験があります。帰国後、「今度は私の番」と第9回コンクールのホストファミリーに応募しました。

我が家に来てくれたのは、ロシアのポリーナ・クリコワさんと台湾のチェン・ハンさん。はじめはひどく落ち込んでいましたから、とにかくそっとしておきました。2人はもともと

仲が良かったようで、よく一緒にいましたよ。楽器博物館に行ったり、食事に出かけたり、家のピアノで連弾したり、こたつでみかんを食べながらおしゃべりしたりと、楽しんでいました。ホストファミリーとして気をつけたことは、「彼らが生活しやすく、心地よいと感じる距離感でいること」です。ホームステイ期間は家族の一員として、自分の家のようにリラックスしてほしいですからね。

おおかわなみ ボランティア(出場者アテンドスタッフ) 大川七彩さん

子どもの頃からボランティア活動が好きなおともあり、自分の得意とする英語や韓国語も活かさんと応募しました。私が担当したのは、アナスタシア・ヴォロトナヤさんというロシアの女性でした。浜松駅から会場への誘導や、荷物の管理、練習室への案内、スケジュール管理などを行いながら、彼女と行動を共にします。本番まではとても緊張されているので必要以上に言葉はかけず、演奏だけに集中できるように見守る姿勢で付き添いました。初めて会った方なのに、気がつけばともに緊張し、演奏中はまるで我が子のように成功を祈っている自分に驚きました。表彰式では振袖姿で賞状盆を持つ役割をし、コンクール後の立食パーティーにもそのまま振袖姿で参加しました。パーティーではコンテスタントも審査委員もボランティアスタッフも一同に交流でき、本番とは全く違う表情やフランクな会話を楽しめます。世界を股に掛けるコンテスタントや著名な審査委員の方々楽しい時間を過ごせるのはボランティアの特権ですね。今回もすばらしいコンクールになるように精一杯、務めていきたいと思っています。



第9回副審査委員長のアンジェイ・ヤシンスキさん(左から2番目)と、審査委員のアンヌ・ケフェレックさん(右から3番目)と一緒に記念撮影!



Shool Concerts

浜松市内の学校で演奏を披露

惜しくも先に進めなかった出場者は、市内の学校に出向き演奏を披露することができ、学生たちにとって、世界レベルのピアノ演奏を生で聴ける機会はとても貴重で、すばらしい経験になる。コンサート以外にも、授業に参加したり、給食と一緒に食べたりなど、交流を楽しむ。言葉が通じなくても、ピアノを通して心が通じ合う喜びを感じられる、まさに特別な時間だ。これからの将来を担う若い世代がクラシック音楽に魅力を感じ、興味を抱ききっかけにもなるだろう。クラシック音楽を聴く人の裾が、りも期待される。

